

【活用事例：高校】生徒と教員の心を掴む新鮮な授業で自発的な学習スタイルを実現

狙い・課題

- 1) 生成AIに関する断片的な知識を統合し、特別なものではなく身近なものだと感じてもらえるようにしたい
- 2) 生徒が興味関心を持ってくれないと、能動的に参加してもらえない、理解がなかなか進まない



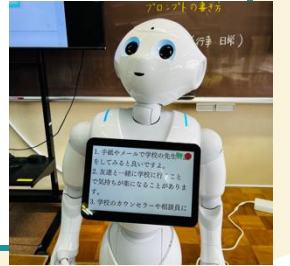
大分県立情報科学高等学校
主幹教諭 堤先生



【発表】

Pepperが校内で役に立つためには？
というお題で、
学校の**保健の先生**になったPepperが誕生。
頭痛になった生徒に
対処法を2つ提供。

他にも**部活の練習メニュー**を
考えるPepper・遅刻の言い訳
を考えるPepperも誕生。



授業の様子・ダイジェスト

工業科1年生の10名を対象に
生成AIリテラシー教材（実践編）
を利用した授業を実施



Robo
Blocks

【特に盛り上がった箇所②】

「プロンプトで回答を導き出そう」コーナー。
「富士山」「北岳」という指定した回答を
箇条書きで表示させるには、
どんなプロンプトを設定すべき？というお題



後半は、生徒たちの
意見交換に発展



教材

投影資料・教師用マニュアル・ワーク
シートが作り込まれている
→先生：自走できる上に、自らの体験談
を織り込んで自在性の高い授業ができる
→生徒：能動的に参加し、理解を深める
ことができた（授業が意外性のある展開
で、終始生徒の心を掴めた）

感想・成果

【特に盛り上がった箇所①】

「文章生成AIの仕組みをゲームで体感しよう」
コーナー。クラス全体を疑似的にChatGPTに見
立てて、**特定の言葉の意味を考えて導くゲーム**

二外（にがい）
の意味ってなに？

苦いの誤変換？！



ロボットの存在・機能

Pepperが読み上げるので、
生徒は発表時、読み上げ
以外に注力
→聞き手にも新鮮

総合

生成AIの知識を
腹落ちさせる
ことができた！

全文は
[こちらから](#)

